

みなぎる力

伊丹市立笹原中学校 2年生学年通信 7号 令和3年5月24日(月)

～職人の技を体感！兵庫県立ものづくり大学校での体験活動を振り返って～

数々の巧みの技に触れて、生徒たちは教室とはまた違った、真剣で充実した表情を見せてくれました。早朝の集合から初めての校外学習、課題もありましたが非常に収穫の多い1日になりました。以下にそれぞれの体験グループの班長を務めたみなさんの振り返りを紹介します。

「スポンの裾上げ」

武本 華采

僕がズボンの裾上げを体験して学んだことは「千鳥縫い」です。「千鳥縫い」とは三角形に縫っていくことで、千鳥足に似ていることからこの名前になったそうです。この作業が一番難しくて一番時間がかかりました。でも、この経験で、家でもできるということがわかったので、これから家庭でも役立つと思います。

そして、僕たちの「心」も裾上げできたと思います。

「ミニバケツ」

永源 晴道

僕がミニバケツの製作体験をして驚いたことは、平らな板金をハンマーで叩いたり、曲げたりすることでちゃんとしたバケツの形が作れることです。難しかったのは「ハゼ組」といって接着剤などを使わずにくっつける技術です。それが難しかったけど、ものづくり体験館の方は、わかりやすく教えて下さったので、思っていた以上にきれいなバケツができました。

「エビのニューバーグ風」

仙次 陽光

僕が料理をつくってみてわかったこと、学んだことは「時間」についてです。料理は1品に使う時間によって食感や味、風味も全く違います。1分1秒の違いが味や風味に大きく影響します。なので、必然的に時計を見る時間が増えました。「時間」について、これからの学校生活や日常生活で意識し、生かせるように努力したいです。

「錫の器」

赤澤 華恵

私が錫の器を作って感じたことは「一見簡単そうに見てえても実際やってみると難しい」ということです。錫の器は、叩いて形を作るだけで、そんなに難しくないと思っていたけど、実際やってみると難しかったです。講師の先生は簡単そうに叩いても、私たちだととても難しく、職人さんの技を実感しました。今回の体験を通して、「難しいことにもチャレンジしてみよう」と改めて思うことができました。

「シルバーリング」

勝毛 晴悠

僕はシルバーリングをつくるにあたって、いくつか難しいことがありました。その中でも特に難しいのが、リングの「輪っか」作りです。器用な人は結構簡単にできていたけれど、僕みたいな不器用な人にはとても難しく感じました。ですが、講師の先生に聞いたら大まかなコツから細かなコツまで1つずつ丁寧に教えてもらい、おかげで、うまく作ることができました。このように、不器用な人でも、またやりたいと思うような貴重な体験になりました。

「音声認識ロボットカー」

仁部 晃之輔

僕が今回の体験で一番印象に残っているのは「ハンダ付け」です。「ハンダ付け」は初めての体験で、難しかったですが楽しかったです。ハンダ付けをしているとき、金属を溶かし富士山型にするのが良いとされています。でも、良くない目玉焼きの形になってしまうことが多く、そこが特に難しかったです。

「スマホスタンド」

谷村 翼

僕がスマホスタンド作りで一番楽しいと思ったのは、完成したときの達成感があったことです。そして、0（ゼロ）から始めて、板金、叩く、溶接、組み立てで難しく苦労もしたけど、難しかったからこそ身についたものもたくさんありました。

こういった経験や技術は工業の道に進んだときに、とても大事になってくるものだと思います。とてもいい経験ができたと思います。

